

3月11日から12日 北ア 燕岳往復 同行者 Tぢ、S水、N尾 (府大WV)



前日(3月10日)の夕方にTぢのagon Rで府大南門を出発し、林道のゲートに着いたのが深夜1時過ぎ。

中房温泉までの長い長い林道を夜通し歩きつづけて尾根にようやくとりつく。出だしは、結構急だ。ピッケルを出さずに登ろうとするので、おいおい道具は使おうぜという。



合戦尾根に行く。N尾は、S水の陰謀で大量の団装を持たされてよれている。何となく内股で歩くのがおかしい。変な歌を大声で怒鳴るように歌いながら歩くWV。正直、少し引いた。

合戦小屋には昼過ぎについて、テントを張る。連中は、晴れの間燕に生きたそうだったけど、そんなハードスケジュールには到底つきあえん。



S水がゆうには、立派なテントがあったのだが、全く必要もない西表島のパーティに奪われてしまい、冬の北アに残されたのは腐りかけたエスペース。しかも内張なしで、かぶせるだけのフライ。こんなテントでは主稜線にはとうていあがれない。フライを強引に内張として使わせる。テントの中は、S水N尾の荷物が散乱し、とってもカオスな状態。さっきまで使っていたラジオが速攻で行方不明になっている。



翌3月12日は、予報通り見事な悪天候。視界は50mくらいか。

彼らの靴などを見ていると、昨日の晴れで靴が濡れており、上にあがって大丈夫かいなど若干不安になる。ムラカミの親父に勧められたという袋みたいなオーバーシューズを付けているのでまあ多少は我慢できるでしょう。



さしたる困難もなく燕山荘に近づく。樹林を抜けるとさすがに風が強い。

燕山荘の下を回り込むところで、急な斜面にTちが入り込み、フォローのS水が左手で雪を着るとズさっとTちの足下から雪面が切れる。くわばらくわばら。



主稜線にでると、立派なラオヘンで、視界も20mくらいにまで下がる。高瀬側に回り込むと猛烈に吹き上げてくる。みんな体力だけは満点。





しばらく進んでいくと岩が出てきて、頂上だった。天気悪いので、そそくさとおりの。



一見まともそうに見える装備なんだが、足下は？



合戦小屋までもどって見ると、結構つもっている。テントをしまって、下山。





登りのトレースは全くなくなっている。合戦尾根が意外と複雑なので、かなり慎重に下る。ラッセルはあるけど、下りだからね。



中房温泉手前の橋に直接出る。そのあと、ひたすら林道を歩き、暗くなってからゲートに止めたRにたどりつく。やれやれ。

松本で、風呂は行って、肉くって家路につくが、驚いたことに関ヶ原は大雪で、ちっとも進まん。結局学校についてののが3月13日朝8時すぎという弾丸山行でした。